

提言第13号 胃瘻造設・カテーテル交換に係る死亡事例の分析

事例1

< 事例概要 >

(胃瘻造設)

・70 歳代、脳梗塞後遺症、高血圧で当該医療機関に入院中の患者。抗血小板薬内服中。BMI 14.9 kg/m²。血清アルブミン値4.0 g/dL。

・経口摂取が困難となり介護施設利用のため、当該医療機関の他診療科より胃瘻造設を依頼。脳梗塞の再発リスクを考慮して、抗血小板薬は継続すると判断した。

・経皮内視鏡的胃瘻造設術で、バンパー型カテーテルを使用し、胃体部前壁に造設。

・約 2 時間半後、多量の凝血塊を含む吐血、顔面蒼白あり。緊急内視鏡で胃内に大量の凝血塊を確認したが、出血源の特定が困難なため救急搬送。搬送先医療機関で、胃瘻造設部からの出血を確認し焼灼術を実施するが、当日死亡。

・死因は、出血性ショック。死亡時画像診断 (Ai) 不明、解剖無。